

# Rotary Yachiyo



2022-23 年度国際ロータリーテーマ

「イマジン ローターリー」

2022-23 年度クラブテーマ

「ロータリーを学び、語り、

奉仕を実践していこう。"Think"」

## 週 報 第 2 6 8 8 回

2023 年 2 月 1 7 日

八千代ロータリークラブ CLUB NO.15070

### 今 回 例 会 行 事

テーマ：今トレンドのアルファベットのカタカナ用語  
及び会員増強について

担 当：会員増強委員会

卓話者：三井啓久会員

### 次 回 例 会 2 月 2 4 日

テーマ：クラブ協議会

担 当：研修会

◆◆◆第2687例会◆◆◆

司 会 中島貞好

「奉仕の理想」「四つのテスト」

### 会 長 挨 拶

会 長 杉 晟

皆さん、こんにちは。  
今日は、日本の近代資本主義の父とされる  
渋沢栄一について語ります。  
皆さんご存じの通り 2024 年度に、一万円  
札の肖像となる方です。また、「ロータリー  
の心」の持ち主でもあります。

皆さん、渋沢栄一著「論語と算盤」の本  
はご存じでしょうか。この本がなぜビジネス  
スマンに読み継がれるのか？  
渋沢栄一は日本の近代資本主義の父と  
される人物で、六百社近くの創業に関与  
している彼の思想は、日本企業の原点と  
も言える。大正五（1916）年に刊行された  
『論語と算盤』が、今なお多くの経営者や  
起業家に読み継がれているのか。現代に  
も通じる「道徳と経済」の考え方を学べる  
一冊で、教養本といえる本です。気軽に  
親しんでもらうために現代語で編まれたも  
のです。  
その巻頭言としては  
大阪大学名誉教授 加地伸行氏が、「論  
語と算盤」の紹介を、「日本企業の先駆

者の汲めど尽きせぬ知恵」として書かれた  
ことを抜粋します。

「渋沢は、彼の在世したころ日本を次の  
ように述べている。江戸時代以来、道徳教  
育を受けていたのは武士層であり、農工  
商にはそれが乏しかった。そのため、彼  
が関わる商業界では、収益だけが目的の  
拝金主義となってしまう。一方、武  
士層は朱子学的道徳教育であったため、  
問題があったとする。すなわち、現実を  
念頭に置かず、道徳のための道徳教育と  
いうような原理主義的であったため、空理  
空論となっていた。いわゆる道学であり、  
現実と遊離していたとする。これは、国家  
を衰弱させる。

道徳なき商業における拝金主義と空理空  
論の道徳論者の商業蔑視と、この両者に  
引き裂かれている実情に対して、渋沢  
は、現実社会において生きることのできる  
道徳に基づいた商業をめざしたのである。  
それを可能とする接着剤、商業と道徳  
の接着剤として渋沢が選んだのが儒教  
(論語)であった。

渋沢は、根本問題として教育について発  
言している。すなわち、教育は知識教育  
に偏っており、徳育が疎かになっている。  
知育と徳育との併行が必要とする。なぜ  
なら、この徳育があつてこそ、商業の公共  
性・社会性を身につけることができるから  
である。それが拝金主義・利己主義を抑  
止すると渋沢は考えている。

その意味では、本書は、人生論でもあり、人間論でもあり、経営哲学でもあり、そして利殖（利益）との関わりを中心にして説く道徳論でもある。

その間、一貫しているものは、人間の品位であり、その品位の美しさである。品格でもある。平成 18 年以來のここ数年、藤原正彦氏著「国家の品格」がよく読まれているが、本書はそこに通ずるものがある。あえて言えば、本書は「経済人の品格」という書名であってもおかしくない。日本の経済人は、いまさまざな難しい問題を前にしているが、本書が取り上げている問題と本質とにおいてはほとんど同じである。それは、利益[私]と道徳の[公]との関係という古来の難問である。その解釈について、渋沢栄一という、日本企業の先駆者が、官を辞して、あえて経済人として生ききったその壮絶な生涯におけるこれら訓話に、汲めど尽きせぬ知恵が湧き出ている」と記されている。

さて、書籍「論語と算盤」で学べる一番大事なことは、一言でいうと以下の 1 文です。論語を元にした道徳心と、自己を高めるための善意の競争による経済との融合により、社会全体の富が保たれる。渋沢栄一は、幕末から明治・大正・昭和までを生き抜いた起業家です。明治時代には、大蔵省を経て、起業家として約 480 社の会社設立に関わり、「日本資本主義の父」と呼ばれています。みずほ銀行や王子製紙、帝国ホテル、麒麟ビール、アサヒビール、サッポロビール、JR 東日本、東急電鉄、日経新聞、東京電力、東京ガス、東京海上ホールディングス株式会社など、数々の大企業の設立には彼が関わっています。また同時期に、約 600 の教育機関・社会公共事業の支援にも関わり続けました。医療であれば、日本赤十字社、聖路加国際病院など、教育機関であれば、一橋大学、日本女子大学、早稲田大学などがあります。そして、70 歳でビジネス界を引退しますが、その後当時悪化していた日中関係や日米関係の改善のための民間外交にも尽力し、二度もノーベル平和賞候補に選ばれるという経歴も持っています。そんな渋沢栄一が、創業当初から掲げている思想が「論語と算盤」です。論語から人格形成を学び、利益追求を意味する算盤から、資本主義の利益主義一辺倒にならず、バランスをとることが大切であると学ぶことを意味します。論語とは、孔子が説いた道徳です。

算盤とは、お金とモノの売り買い関わる経済です。

この道徳と経済というものは、人が生きる上で欠かすことのできないものです。

つまりこの「論語と算盤」は生き方の教科書とも言える存在です。

プロ野球チームの日本ハムの栗山監督が選手たちに配って読ませたことでも有名で、大谷翔平の愛読書とも言われています。また、利益主義が一辺倒になりつつあった中国でも注目された考え方です。

本書の大きな主張は二つある。一つは、道義を伴った利益を追求せよというものだ。そしてもう一つは、自分より他人を優先し、公益を第一にせよ、という主張である。要は、金儲けをすることと、世の中に尽くすことを両立しなさい、というわけである。（「ロータリーの心」そのものである）

論語を選んだ理由

人格形成のベースの本として「論語」を選んだ理由について、渋沢栄一は「論語」から見えてくる孔子は「偉大な常識人」だと言うことです。常識を卓越した特徴を持つ偉人は多くいるが、欠点や短所もあります。しかし、孔子は特別な長所も短所もなく、人を抜き出した能力や強い個性をもった天才・奇才でもないと言えます。釈迦やキリストのようなになるのは難しくても、孔子のようになるのは難しくなく、偉大な平凡人と言えるからです。故に、論語は、平凡な人でも手が届くからこそ、政治や哲学、宗教的な理念というわけではなく、経済的な言語やロジックとして汎用的に表現でき、個人の身を修めるといった日常的な実践指導も可能であると着目したからと言える。

利益重視の経済に道徳心を

渋沢栄一は、本書の中で、経済についての部分で以下のように述べています。

現代人の多くは、ただ成功とか失敗とかいうことだけを眼中に置いて、それよりもっと大切な「天地の道理」を見ていない。

金儲けを品の悪いことのように考えるのは、根本的に間違っている。

しかし儲けることに熱中しすぎると、品が悪くなるのもたしかである。金儲けにも品位を忘れぬようにした金儲けは悪いことではないが、金儲けに執着してしまうと、どんなことをしてでも金儲けをするということが目的になってしまいます。日本の経済もそのような方向に向かっているように感じたからこそ、渋沢栄一は経済と道徳の融合が必要だと感じたのです。

2008 年頃にあったリーマンショック以来、この渋沢栄一の「論語と算盤」は再び注目を浴び始めました。そして、CSR(企業の社会的責任)も問われる時代となりつつあります。現在では SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の考えもあり、株式利益のためだけの経営ではなく、社会のための経営にシフトしてきています。

成功や失敗というのは、結局、心をこめて努力した人の身体に残るカス(糟粕)のようなものなのだ。現代の人の多くは、ただ成功とか失敗とかいうことだけを眼中に置いて、それよりももっと大切な「天地の道理」を見ていない。彼らは物事の本質をイノチとせず、カス(糟粕)のような金銭や財宝を魂としている。人は、人としてなすべきことの達成を心がけ、自分の責任を果たして、それに満足していかなければならない。成功こそが目的だとしていた現代において、成功や失敗というのは、残りカス(糟粕)にすぎないと言います。つまり過程のひとつに過ぎず、道義に従い、自分がなすべきことに全力を尽くすことが一番大切であるということです。社会の基本的な道徳を基盤の上で築いた富でなければ、長続きはしないし、価値なんてありません。

この「論語と算盤」つまりは「道徳と経済」は、時代が変わっても、本質的には不変の「人間と人間社会の本質」なのです。

(ここのところを渋沢は、現代の人の多くは、ただ成功とか失敗とかいうことのみを眼中に置いて、それよりももっと大切な天地間の道理を見ていない。彼らは実質を生命とすることができないで、糟粕に等しい金銭財宝を主としているのである。人はただ人たるの務めを完うすることを心掛け、自己の責務を果たして行いて、もって安んずることに心掛けねばならぬ。と記している)

最後に、渋沢が『論語と算盤』の締めくくりに語った言葉を紹介したい。「道理とは、天にある太陽や月のように、いつも明るく輝いていて、決して曇ることはない。だから、道理と共に行動する者は必ず栄える」。

## 幹事報告

幹事 中村賢治

### 【理事会報告】

- ・3/10 IM 開催に伴い例会場所変更  
ウイシュトンホテルユーカリ 12:30 点鐘

回覧しますので出欠をご記入下さい

理事会は 3/17 に延期

- ・新入会員伺いについて承認。回覧しますのでご確認頂き、異議のある方は1週間以内に幹事までお申し出下さい。
- ・4/27(木)親睦ゴルフコンペ: 中山 CC 承認。詳細は後日親睦委員会より。
- ・地区よりパキスタン洪水救援基金への依頼が来ておりますので托鉢へのご協力をお願い致します。
- ・5月以降に例会をコロナ禍前の体制に変更する予定です。

### 【報告事項】

- ・3/4 環境セミナー開催
- ・次年度短期交換学生は、Alexander James KANAR 君です。
- ・4/10(月)12G ゴルフコンペ: 本千葉 CC 回覧しますので、出欠等ご記入下さい。

## 表彰

マルチプル・ポールハリス・フェロー第1回

安宅照男会員



## お祝い

結婚記念日: 寺沢会員



佐野会員





## 例会行事

担当：出席委員会

テーマ：文・行・忠・信と鉄骨工事

卓話者：山浦恭宏会員



こんにちは、本日卓話をさせていただきます。出席委員会の山浦です。どうぞ宜しくお願い致します。

令和元年10月に入会させて頂いてから4年が経ちましたが初めて卓話をさせていただきます。テーマを「文・行・忠・信と鉄骨工事」とさせて頂きましたが、まずは私自身のプロフィールからお話しさせていただきます。

私は昭和44年3月に習志野市東習志野で生まれ、結婚をするまで東習志野の実家で過ごしました。兄弟は兄と妹がいます。私は建築の専門学校を卒業して平成元年のバブル期に20歳で船橋の建設会社に入社をしました。その会社では主に鉄筋コンクリート造の新築工事の施工管理、いわゆる現場監督をしていましたが拘束時間も長く休みの予定も立たない監督業が嫌で親の会社に行けば楽だろうという安易な気持ちで23歳の時に家業である山浦鉄工所に戻ってきました。当時は父が会社を取り仕切っていたので私は思惑通り1従業員として朝8時から夕方5時までの残業のない勤務、日曜日は必ず休めるという思惑通りの環境を満喫しながら働いていました。ところが1年半が過ぎたころ父が急死してしまい急遽自分で会社を切り盛りしなくてはならない状況になってしまいました。父が急死した為、見積りの仕方も知らず、お客さんの顔と名前も一致しないといった右も左も解らない中、がむしゃらに仕事をこなしても自分の給料が取れない時もあり苦しかった事もありましたが周りの人に助けられ、氣にかけて頂いて何とか今日まで来ました。父が亡くなった翌年25歳で結婚をして二人の子供に恵まれて二人とも社会人になり

家を出て行き今は妻と二人暮らしの生活をしています。

次に会社の成り立ちです。

山浦鉄工所として昭和45年に習志野市の東習志野の自宅の庭先で父が創業しました。当時、周りは未だ住宅も少なかった為、自宅の庭先で小さな工場を構え鉄工所として木造住宅の門扉やベランダなどを作っていましたが次第に近隣に住宅が建ち始め騒音などの問題も出だした為、昭和54年に今の八千代に工場を移転しました。

八千代に工場を設けてからは多少工場も広くなり天井クレーンもあった為、小規模の鉄骨工事もやるようになっていました。鉄骨屋と鉄筋屋さんとは混同されがちですが、鉄筋工事はコンクリートの中に入っている丸い細い鉄筋を施工する業者さんです。なので鉄筋を組んで型枠で囲ってコンクリートを流し込んだ柱梁を骨組とした建物になります。それに対して鉄骨とはH鋼や角パイプなどの柱にH鋼などの梁を組み合わせた柱梁そのものが建物の骨組みとなります。

私が23歳の時に自分の会社に戻ってきた頃は鉄骨の階段や小規模の鉄骨、あとは古くなった階段やベランダなどを現地へ行って直すといった鉄を切ったり溶接したりする事を色々やっていました。

今も作業の内容はあまり変わりませんが扱う物が多少大きくても対応できるようになりました。

扱う物が大きくなるという事は小規模の鉄骨が中規模になるという事で、小規模の鉄骨の頃は資格等を求められる事も無く加工ができていました。

それが、それなりの規模や公共工事的な工事になってくると鉄骨屋としての資格が必要になってきます。鉄骨屋の資格とは国土交通省が認定する工場の製作能力の事で設計図書にこの資格を持った鉄骨屋で製作しなさい。という記載がされますので設計図書で指示された認定資格がないと原則その工事は出来ません。

その資格とは業界では認定とかグレードとかいわれ、5つのランクに分かれていてJ(ジュニア)R(レギュラー)M(ミドル)H(ハイ)S(スーパー)となります。

何が違うかというと、溶接できる板の厚さと施工できる建物の大きさが変わります。板厚に関しては解りづらいので施工規模で簡単に説明すると施工できる建物大きさがJグレードで延床500㎡まで高さは1

3mまででRグレードは延床で 3,000 m<sup>2</sup> 高さは20mまでとなります。その上のM・H・Sは床面積や高さの制約がありません。MHSの違いは扱える板の材質や厚みが違うくらいです。うちはRグレードなので延床 3,000 m<sup>2</sup> の高さが20m迄となります。このグレード(認定工場)という物は工場の製作能力に対する認定資格なので本社が東京でも千葉県に工場があれば工場の所在地で登録されます。なので千葉県に工場がある会社は概ね、千葉県鉄骨工業会(全国鉄骨評価機構)という団体に加盟しています。千葉県で認定を持っている鉄骨屋は7割ほどがこの工業会に入っています。加盟工場は62社でグレードを取得している工場はその内、46社で内訳はHグレードが8社、Mグレードが24社、Rグレードが14社でJグレードは施工できる規模が小さい為取っているところは今のところいません。その他に(工業会以外の組織の**日本鉄骨評価センター**でも認定取得ができるので、そちらで認定を取っているのはH3社・M7社・R4社)なので、千葉県の認定工場は全体で60社ほどです。他県の鉄骨屋さんが製作をして千葉県内に運び込んで組み上げる工事もあるので認定を持っているから千葉県の工事を独占出来るというわけでもないのが安泰という状況ではなく、持っていないとスタートラインに立てないというのが現状です。

そもそもその認定を取るには資格者として、製作を管理する鉄骨製作管理技術者と溶接を管理する溶接管理技術者。それと検査をする為の建築鉄骨製品検査技術者と溶接技能の専門級を保持する技能者がそれぞれ必要な為、先ず、社員でその資格を取ることから始まります。その資格を揃えて、次に工場設備ですが天井クレーンや溶接機・検査機器など必須設備を整えながら社内基準といううちの工場は鉄骨を作るのにこういう基準で作りますという書類を整備します。そうしてやっと申請が出来ます。うちは申請する準備期間として2年ほど掛かりました。最初は2004年に申請をしました。先ず事前に書類を送って書類審査が終わり工場に審査員が二人来て書類と実態が合致しているか？又、それぞれの技術者たちが本当に社内基準に沿って仕事をしているか？それぞれの資格の内容を本当に理解しているかの質疑応答形式の審査が行われます。審査員は大手の設計事

務所の設計士と大学の建築系の教授がくるので本当に理解していないと直ぐに不信感を持たれてしまいます。だいたい9時頃来て15時頃まで色々とチェックをされてその日その場でその二人の協議によって可否が伝えられます。

最初のチャレンジの2004年は設計事務所の審査員にずいぶん詰め寄られ不合格とされました。そうして翌年2005年に再チャレンジで晴れて合格となりRグレードの認定工場となりました。その事を、仕事を依頼してくれている会員の万葉建設の佐々木会員に報告した所「山ちゃんともやっと鉄骨屋って言えるね」と言ってもらい嬉しかった記憶があります。

その認定も5年毎の更新なのでそれぞれの資格も更新試験や講習を受けながら維持しておきながら5年毎に設計事務所と大学教授がくる認定資格の更新を続けています。5年の間に技術の進歩や新たな材質の材料が使われる様になったりするので更新時には社内基準の再整備や材料の管理方法などの対応が必要になります。

いよいよ、文行忠信が社是になった経緯ですが、直近の2020年の更新時に社内整備の類で品質保証方針を定める事が追加項目となっていて、それまでは品質保証方針なんてものは社内整備の必須事項になっていなかったののでうちの会社にはありませんでした。しかし書類審査の項目で新たに必須項目になったので作らなければいけない状況になったのですが、そもそも経営理念も社訓も無い状況でしたのでこれを機会にどういう理念で仕事をし、どういう事を社員に望むか会社の基本スタンスは何か？を考えて、社是を定めようと思いました。

そう思ったときに以前ある方に頂いた本を読み返し「文・行・忠・信」にたどり着きました。文は学ぶこと、行は行うこと、忠は誠実であること、信は偽りのないこと！この考えは普段の生活においても会社にとっても大切な考えだと思い社是としました。学んで資格を取る、維持する為にも学び、学んだ知識を以って鉄骨の製作を行い、誠実に仕事にあたり、その中で偽りを生まない事！建物の主要な骨組を作る会社として大切なことが現わされていると思っています。

学ぶという部分においては、認定工場として最低5人の資格者が必要となり、そ

の5人の種類は鉄骨製作管理技術者・溶接管理技術者・製品検査技術者・超音波探傷検査技術者・溶接技能者となり技術の進歩や法改正などがある為、全ての資格が決まった年数で更新試験ないし講習があります。そうして学んだ知識を以って鉄骨の製作を行います。学んでも学んだ知識を以って行わなければ意味の無いものになってしまいます。そうして仕事を行う中で大切なことが忠で表される誠実であり自己(自分)の内面において作業の一つ一つを丁寧に大切にに取り組む事だと思っています。

そして文行忠信の最後の信は欺かない事・偽りのないことです。

近年の鉄骨工事は鋼材の材質が多様化しており、30年ほど前は殆どの建物が柱梁板共にSS材という材質の物でした。それが今はSSに加えて、SN・SM・BCRなどが流通するようになり全体では35種類ほどに細分化されていて、よく使われるものだけでも13種類ほどあります。見た目では区別がつかないので材料屋さんから入って来たときに自社にてマーキングをして材料管理を行います。これも社内基準でマーキングの識別の方法が定められています。製作途中に「この板が一枚足りないからそこにあるのを使っちゃえ」みたいな事を起こさない為にも偽り＝相手を欺かない事すなわち信が大切になります。新築の鉄骨工事だけでなく階段や手摺などの現場での補修工事や鉄の蓋1枚を作る少量の製作においても文行忠信の信念を社員と共有していきたいと思っています。

振り返れば勉強も嫌いで誠実さも持たず偽り続きの十代を過ごしてきて安易に家業を継ぎましたが今は製作管理の勉強をし、資格を取り誠実でいたいと思う日々を過ごしています。

その様な日々を今過ごしているのも要

近隣クラブ例会日		例会場
火曜日	四街道R.C	四街道ゴルフクラブ
火曜日	八千代中央R.C	ウィッシュトンホテル・ユーカリ
水曜日	習志野R.C	習志野商工会議所会館
水曜日	佐倉中央R.C	第1ウィッシュトンホテル・ユーカリ第3夜間オリベート
木曜日	佐倉R.C	フランス料理 シェ・ムラ
木曜日	習志野中央R.C	習志野商工会議所会館

- クラブ広報委員会 委員長:田村隆治 副委員長:久土地 剛
- 出席委員長 山浦恭宏※欠席の際は必ず火曜日迄に出席委員長に連絡して下さい
- 例会日 金曜日 12:30～13:30
- 例会場 パッソ・ノヴィータ (〒276-0049 八千代市緑が丘 1-1-1 公園都市プラザ 1F)

所要所において人との出会いで助けられ、考え方を教えられたからだと思っています。人との出会いによる思考の変化に感謝を強く感じています。このロータリークラブに入会させて頂いた事も出会いによるいい意味での思考の変化と、出会いだと思っていますので誠実に嘘偽りなく皆さんとお付き合いをさせて頂き学ばせて頂きたいと思っていますのでこれからも宜しくお願い致します。

幹事 中村賢治

パキスタン洪水救援基金の托鉢は、5万円のご賛同を頂きました。ご協力ありがとうございました。

ニコニコ BOX～ ￥40,000-

☆めでたく結婚 40 周年を  
迎える事が出来ました。 佐野  
☆結婚 48年になります。 寺沢  
☆山浦さん卓話楽しみにしています☆  
浅野正敏・中村・池田・市原・花島・菊川  
浅野正幸・齋藤昌宏・佐久間・江頭・江口  
飯田・植村・松戸・遠藤・永田・安宅  
寺沢・風間・及川・鈴木・谷田貝・稲山  
君塚・杉・上代  
☆山浦さんごめんなさい。

大遅刻しました。 三井  
☆節分の日にもまた車を盗まれて、へこんでます。皆さんもお気を付けて！ 佐々木  
☆橋本会員、中間報告ピンチヒッター  
有難うございました。 安宅  
☆久々の例会参加です。  
すみませんでした。 安宅

～友愛 BOX～ ￥9,000-

☆本日卓話させて頂きます。  
よろしくお願い致します。 山浦  
☆山浦会員卓話よろしくお願い致します☆  
中島貞好・佐野・古川・渡邊・宮野・栗原  
杉山

	会員 総数	出席 対象者	出席者	%
2 / 10	5 3	4 9	4 5	91.84

2月のロータリーレート 1ドル¥130-